

探ろう、廿日市の自然・人

廿日市市立阿品台東小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 文化 交流

体験活動場所 もみのき森林公園

【学校紹介】

○ 本校がある阿品台団地は、広島県西部の廿日市市に、昭和53年、広島市のベッドタウンとして造成された。阿品台東小学校は、その翌年の昭和54年に設立され、今年で32年目を迎える。児童数が1000人を超える時期もあったが、現在は300人弱の中規模校である。400メートルトラックがある大きなグラウンドと、校舎から見える瀬戸内海の島々の眺めが自慢である。団地周辺には、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学などの教育機関がそろっている。

本校の教育目標は「自信と誇り」で、本年度は、「人とのかかわりを大切にする児童の育成」を学校研究主題にして取り組んでいる。以前から「ピア・サポート」に取り組んでおり、1年と6年、2年と4年、3年と5年が1年を通して、いろいろな行事や授業で関わっている。



- 校長名：奥 志保江
- 児童数：286名（14学級・特別支援学級を含む）
- 所在地：広島県廿日市市阿品台東2番1号
- 電話番号：0829-39-5358
- URL：<http://ww4.enjoy.ne.jp/~ahigashisho/>



ピア・サポート

【体験活動のねらい】

- 自然(山・川)に親しみ、自然のよさを知る。
- きまりを守り、友だちと協力して集団生活を行うことを通じて、心身を鍛え、自立心や自主性を育てる。
- 宿泊先の地域の人々との交流や出会いを通して、コミュニケーション力などの人間関係形成能力や、豊かな心を育てる。
- 自分や友だちの新たな一面を発見し、お互いに認め、支え合おうとする学年・学級集団を育てる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月	事前学習				
	・ 主題名「桜を守る」4-(7)	1	道徳	学校	担任
	・ 吉和の町を調べよう	3	総合的な学習の時間		
・ バケツ稲の田植え	2	総合的な学習の時間			

7月	活動準備 ・班別，個人別目標の設定 ・体験学習の内容について オリエンテーション ・係に分かれて事前の準備 ・スタンプの練習	1 1 1 1	総合的な学習の時間	学校	担任
7月 (夏季休業)	宿泊体験活動(3泊4日) ・キャンプ ・飯盒炊さん ・沢登り ・郷土料理づくり (交流) ・オリエンテーリング ・神楽鑑賞，体験 ・登山 ・キャンプファイヤー ・奉仕作業	2 4	特別活動(学校行事)	もみのき 森林公園	教職員 施設職員 ゲストティー チャー
9月	事後指導 (活動のまとめ) ・お礼の手紙作成 ・体験レポートの作成 ・体験の俳句鑑賞会 ・主題名「友達を知る」2-(3)	1 2 1 1	国語 国語 国語 道徳	学校	担任
10月	発表 (校内きりひろばで) ・きりひろばに向けて ・体験活動のまとめ新聞の 作成 ・きりひろばの企画	1 1 0	学級活動 総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

○沢登り

「十方山(じっぽうざん)に源流を持つ深山幽谷の瀬戸谷を登って，瀬戸の滝に打たれよう」を目標に47メートルの滝に向かって川の中を800メートル歩く。ライフジャケット，ヘルメット，靴，手袋等の装備で実施する。今回の体験の中で最も経験させたかった活動である。

ガイドから登る際の注意を聞き，準備体操をして川の中に入る。川の水の冷たさ，石や岩の上を歩く難しさ，足が届かない水深といった自然の姿に，はじめは戸惑っていた児童だったが，力をあわせて全員登りきることができた。



沢登り

○郷土料理づくり (交流体験)

吉和に伝わる寿司づくりを地元の方に教わる。地元で採れたごぼうや大根，にんじんなどの野菜を使う。すし飯を型に入



郷土料理づくり (交流体験)

れ、取り出すときには歓声が上がった。全てが手作りで心のこもった料理に、「おばあちゃんのうちに帰ったような感じがした。」との感想もあった。みんなでお腹いっぱい食べることができた。

○冠山登山

広島県で 2 番目に高い山、冠山(かんむりやま)に登る。冠山登山道の自然を観察し、太田川の源流域を探検するとともに森の大切さを学ぶことが目的である。指導者から、熊やマムシなどの危険動物などについて事前に話を聞き、準備運動をして出発する。登りながら何度も立ち止まり、小さなサンショウウオやニホンヒキガエル、特徴的なにおいをもつ植物について教えてもらいながら登った。



冠山登山

【体験活動の効果を高めるための事後学習】

○体験活動(野外活動)をうけて

- ・礼状作成, 体験活動の感想文
- ・テーマに基づく体験活動のまとめ

○総合的な学習の時間

- ・成果発表会の計画, 資料作成, 発表練習
- ・きらりひろば・・・レポート発表, 作品展示

○道徳

- ・生命尊重, 自然愛, 家族愛等の学習

[指導に当たって留意したこと]

- ・「感謝」や「自然愛護」など、振り返りの視点を明確にする。
- ・振り返りでは、しおりや写真、ビデオなどを積極的に活用する。
- ・主体性が発揮できるよう、児童発表の企画や準備を児童が行う。



講師による説明(冠山登山)

【交流先や施設等との連携】

事前に二度、体験地(もみのき森林公園)に行き、活動プログラム等について施設、指導者等と打合せを行う。施設からも来校してもらうことができた。活動計画立案の段階から、学校側の考えを伝えながら協議を重ね、結果、当初考えていた活動よりもシンプルでゆとりのあるものになった。限られた予算の中で有意義な活動になるよう、いろいろな助言をしていただいた。雨天など、天候不良時の活動についても、臨機応変な対応や助言をしていただいた。

【評価の工夫】

- ねらいに沿った内容でアンケートを作成し、事前、事後に実施した。
- 1日の終わりに集会を持ち、活動ごとのまとめと、1日の振り返りを書かせる。全員で集まり、意見交流を持ったことで充実したものになった。
- 最終日には、全体を振り返る会を持つ。児童は、友達のよいところをたくさん見つけることをできた。

【安全面の配慮事項】

- 活動場所の状況や施設の様子を把握するために、活動場所へは実際に行き、指導者等と入念な打合せを行う。
- 登山や沢登りなど安全面において特に留意が必要な活動については、外部の指導者数を増やすよう依頼する。(参考：両活動とも5名の外部指導者で実施)他にも、活動中に鈴を携帯する(熊対策)等にも留意した。
- 熱中症対策として、登山には水と飴を準備する。他の活動時もお茶を準備し、児童には水筒を持たせた。
- 児童の健康状態や配慮事項を調査し、事前に保護者と連携をとる。また、体験地周辺の病院を確認し、緊急時に備える。
- 活動中は、定期的に指導者の連絡会を開き、児童の体調把握など、情報共有に努める。

【体験活動の成果と課題】

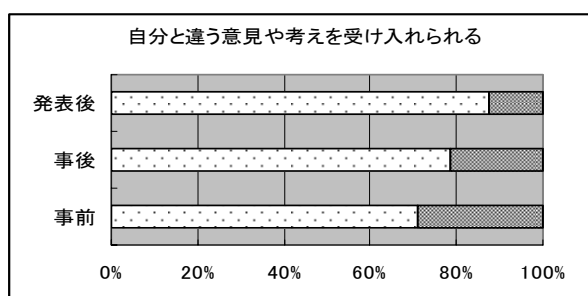
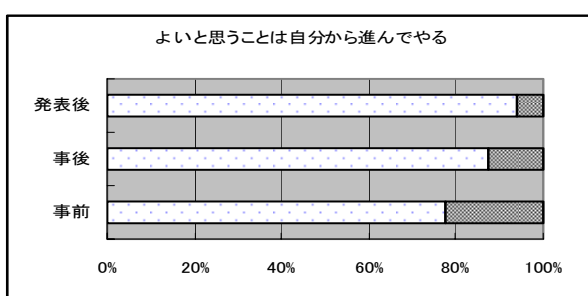
- 日頃の自分たちの生活を反省し、野外活動に向け5つの目標を立てた。この目標を常に意識させ、事前から取り組んできたことは、とても効果的だった。
- 児童アンケートの結果、調査項目の全てにおいて、体験後の評価が高まった。児童の高まった意識を継続するために、事後の指導や活動を充実させることに留意した。その結果、体験から数ヶ月たって実施した調査でも、児童の意識が低下せず、さらに高まるものもあった。非日常的な活動(宿泊体験)で学んだことを、日常的な活動の中で振り返ることが効果的だと実感した。

五つの目標

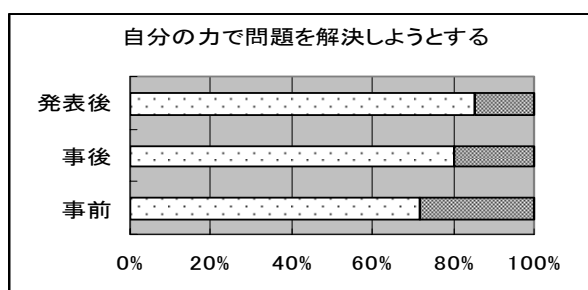
1. 自然に親しむ
2. 人ときずなを深める
3. 考えて行動する
4. 気持ちのよいあいさつ、返事をする
5. もりあげる(自ら進んで活動しよう。)

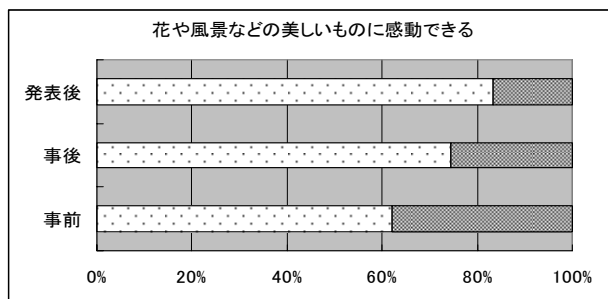
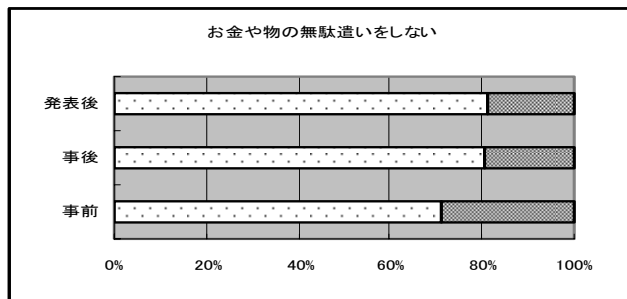


(下はアンケートの一部) 肯定的回答 否定的回答



- 児童は、友だちと数多くの感動体験を共有することで、仲間意識や助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- 自然の中に入り、直接肌で感じながら、学ぶといった直接体験を通じた学びは、これまでの学校生活の中では、なかなか味わうことが少ない体験であり、児童にとってかけがえのない経験となった。





○ 最初にもみのぎに来たときは、チームワークは大丈夫かと心配でした。でも、いろいろなことを協力していくうちに自然とチームワークができてきてとてもうれしかったです。

○ オリエンティングで、けんかすることもなく支え合いながらゴールできたので、友達とさずなが深まったと思います。

(児童の作文から)

○ 最後にすごくきれいな滝がありました。滝をあんなに近くて見たのは初めてでした。元気をもらった感じがしました。

○ 肩まで水につかり寒かったです。でも、川の近くに集まってくるカエルや、カニがまじかに見ることができてうれしかったです。・・・また行くと、大きな滝の音が聞こえました。

(児童の作文から)

- 最終日に、おうちの人からの手紙を読み、返事を書く活動を行った。家族の大切さや家族から大切にされている自分を実感できる活動になった。
- 飯盒炊さんは、おかずを作らずご飯を炊くだけにするなど、活動内容を欲張らず、目標や押さえたいことを絞って実施したことで余裕が生まれ、結果として、達成感を味わうことができた。
- 施設から、体験場所(冠山や調理場など)までの距離が遠かったが、マイクロバスを利用し、移動時間を短縮したことで、十分な活動時間を確保することができた。
- 長期宿泊を継続実施していくには、経費の節減に向けた活動内容や実施方法の工夫が必要である。